

阪神電鉄本線連続立体交差事業 (住吉駅東方～芦屋市境)

都市局 工務課

1. 評価の目的

- 2025年度末の事業完了に伴い、事後評価を行う。
また、今後のまちづくりの検討を行う。

2. 事業概要

- 事業名

阪神電鉄本線連続立体交差事業
(住吉駅東方～芦屋市境)

- 事業期間

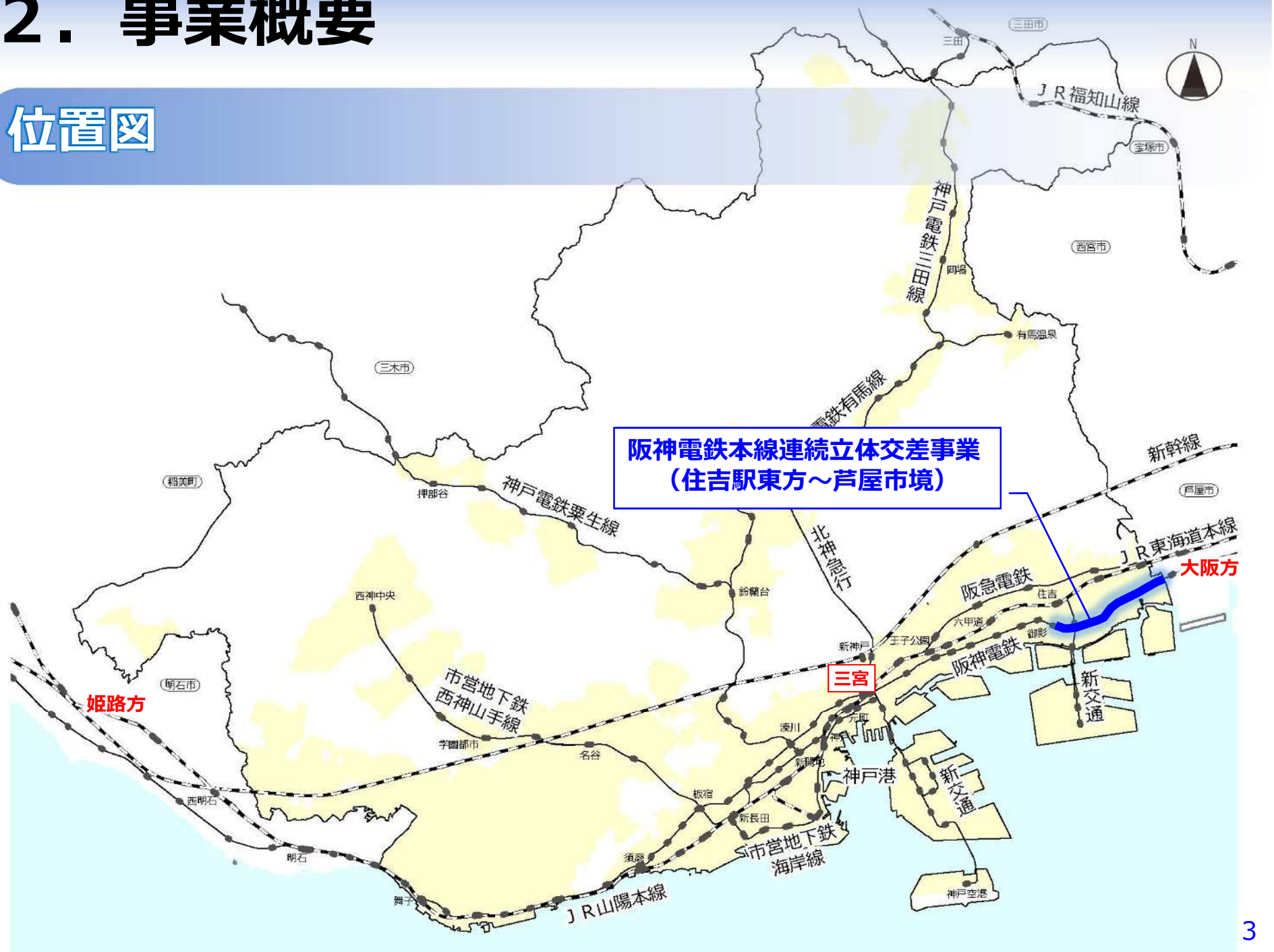
1991年度～2025年度

- 事業の目的

阪神電鉄本線の住吉駅東方～芦屋市境の約3.9 kmにおいて鉄道を高架化することにより、11箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る

2. 事業概要

位置図



2. 事業概要

整備内容



- 事業区間 阪神電鉄本線 住吉駅東方～芦屋市境間 (延長約3.9km)
- 高架化される駅 2 駅 (青木駅、深江駅)
- 除却する踏切数 1 1 箇所
- 交差道路

3 3 路線	【既設】	都市計画道路	7 路線 (◎で記載)
		一般道路	1 4 路線 (○で記載)
	【新設】		1 2 路線 (★で記載)
- 側道 3 路線 都市計画道路 阪神沿北側線、青木駅南線、魚崎駅南線

2. 事業概要

事業の経緯

1983年 9月 都市計画決定

1992年 3月 事業認可

■ 住吉～魚崎駅間（約0.8km）

1997年 10月 工事着手

2005年 8月 完成

■ 魚崎～芦屋市境（約3.2km）

2006年 11月 工事着手

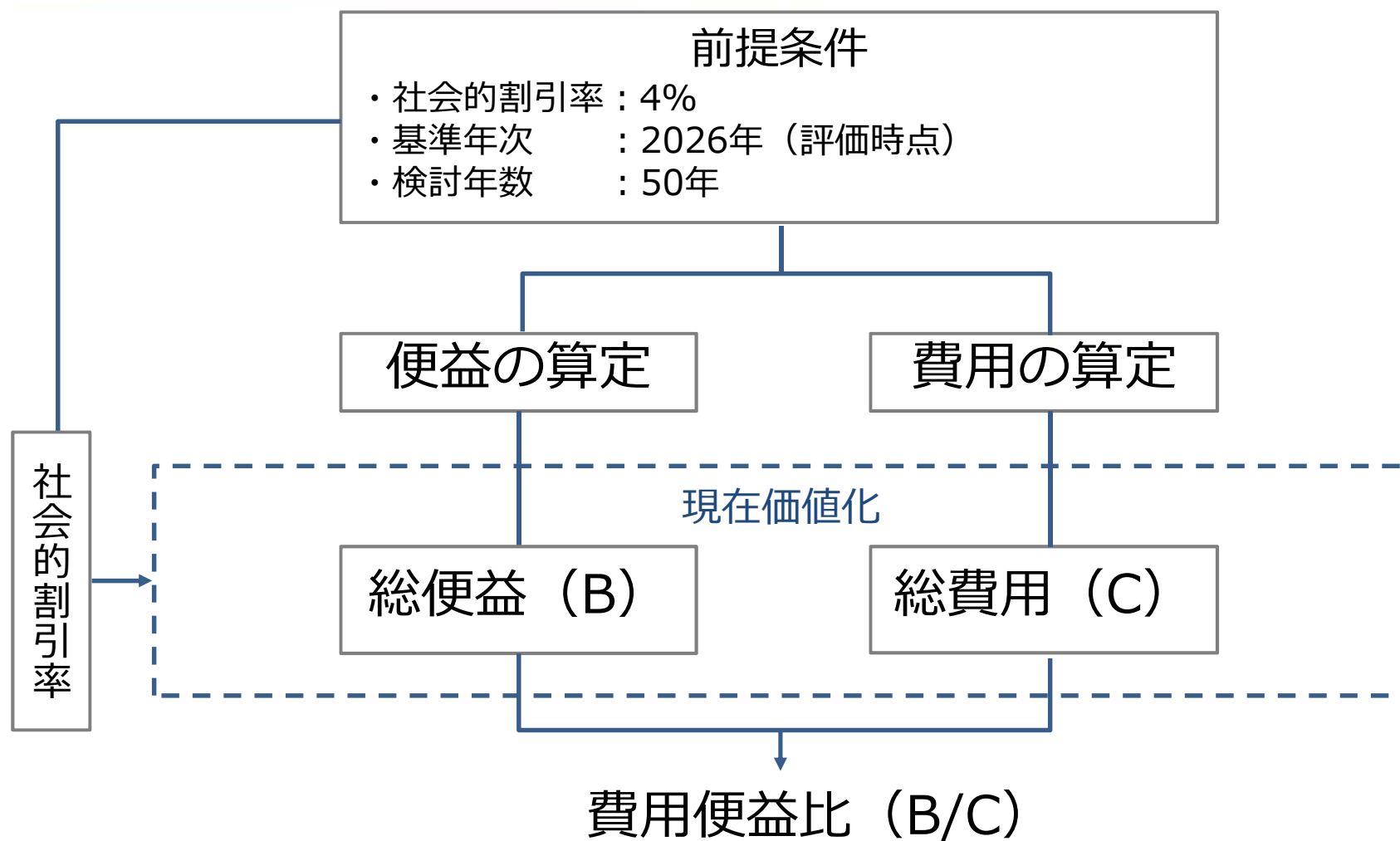
2019年 11月 鉄道高架完了

2021年度～ 関連道路整備着手

2026年 3月 関連道路整備完成

3. 事業効果の検証

費用便益分析（考え方）



3. 事業効果の検証

費用便益分析（算定概要）

便益（B）

○交通流の推計

事業前後の路線条件等を設定し、
自動車交通量および走行速度を推計



- ・移動時間短縮便益

自動車、自転車、歩行者の移動時間に
各時間価値原単位を乗じて算定

- ・走行経費減少便益

自動車において車種別に走行経費原単位を乗じて算定

- ・交通事故減少便益

踏切除却による道路利用者に係る事故
解消便益を算定

費用（C）

- ・連続立体交差事業費
（鉄道事業者負担分を除く）

- ・道路維持管理に要する費用

3. 事業効果の検証

費用便益分析（結果）

(億円)			(億円)	
便益（B）		1949.7	費用（C）	1331.8
自動車	移動時間短縮便益	1751.7	連続立体交差事業費	1331.2
	走行経費減少便益	124.3	(うち電線共同溝整備費)	(7.43)
	交通事故減少便益	9.5	道路の維持管理費	0.6
歩行者 自転車	移動時間短縮便益	20.2		
	踏切事故解消便益	44.0		

※費用、便益ともに現在価値化後の金額



$$B / C = 1.46 > 1.0 \text{ (基準値)}$$

3. 事業効果の検証

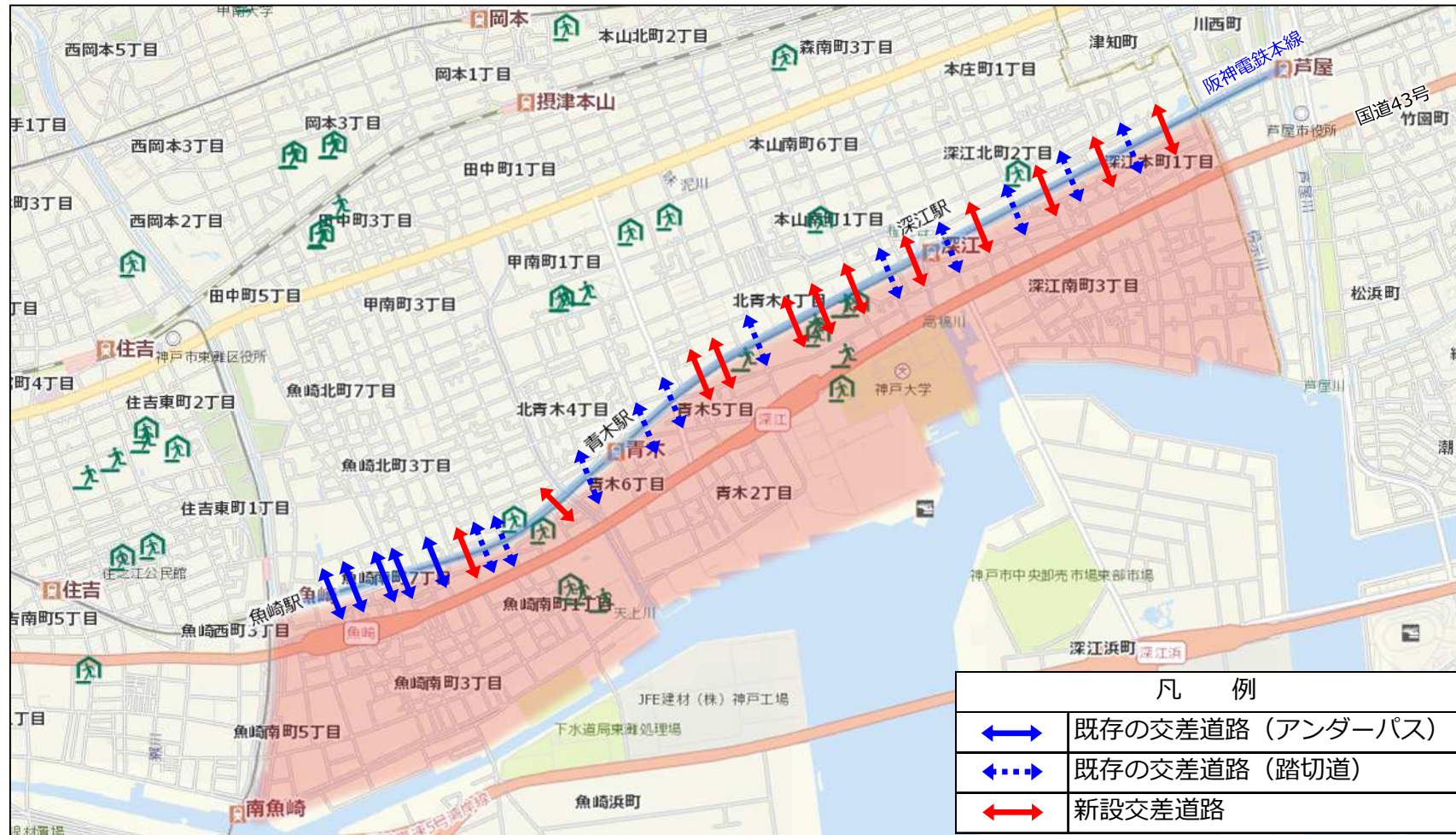
貨幣換算が困難な効果

- ① 交差道路の整備による地域防災力の向上
- ② 交差道路の整備による市街地の分断解消
- ③ 側道の整備による安全性の確保
- ④ 電線共同溝の整備による都市災害の防止等
- ⑤ 高架下等の利用によるまちの活性化
- ⑥ 駅舎の更新による美化およびバリアフリー化

3. 事業効果の検証

①交差道路の整備による地域防災力の向上

災害時の南北避難経路を確保



3. 事業効果の検証

②交差道路の整備による市街地の分断解消

33箇所の鉄道交差道路を整備することで、
分断された南北市街地が一体化



地域の魅力や利便性が向上し、地域活性化が期待される



3. 事業効果の検証

③側道の整備による安全性の確保

歩行者・自転車・車の通行空間を分離

混在（整備前）



高架前の北側側道



分離（整備後）



高架後の北側側道

3. 事業効果の検証

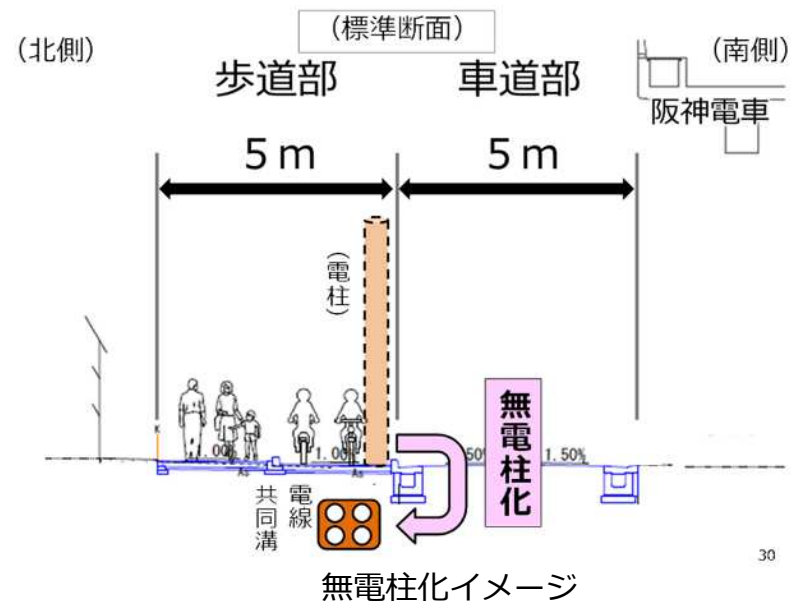
④電線共同溝の整備による都市災害の防止等

無電柱化および電線類を地中化することで、

- ・都市景観が向上
- ・通信ネットワークの信頼性が向上
- ・都市災害の防止



無電柱化された駅前のイメージパース



無電柱化イメージ

3. 事業効果の検証

⑤高架下等の利用によるまちの活性化

高架下等に公共施設や、商業施設等を整備することで、

- ・利便性の向上
- ・まちの活性化



青木駅前



深江駅ドラッグストア

3. 事業効果の検証

⑥ 駅舎の更新によるバリアフリー化および美装化 バリアフリー化



駅舎出入口(整備前)



駅舎出入口(整備後)

美装化 ⇒ まちのシンボル



駅舎外観(整備前)



駅舎外観(整備後)

4. まとめ

事業効果の検証結果

費用便益分析	・ $B / C = 1.46 (>1.0)$
貨幣換算が困難な効果	・ 地域防災力の向上 ・ 市街地の分断解消 ・ 側道の安全性確保 ・ 電線共同溝の整備による都市災害の防止等 ・ 高架下等の利用によるまちの活性化 ・ 駅舎のバリアフリー化および美装化



事業の効果有



今後のまちづくりを検討

5. 今後のまちづくり

魅力あふれる沿線の創造

- ① 駅前広場を活用したにぎわいづくり・魅力発信
- ② 高架下を活用したにぎわいづくり

5. 今後のまちづくり

① 駅前広場を活用したにぎわいづくり・魅力発信

深江駅前広場



地元の幼稚園とまちづくり協議会で
協力した花壇整備



まちづくり協議会による
デジタルサイネージを用いた魅力発信

5. 今後のまちづくり

② 高架下を活用したにぎわいづくり

高架下の有効活用による地域の活性化



魚崎ガレージハウス（パース図）